

GRANULITEREBRA

OYAMA 1961

T.S. BATHYRHAPHE

Genus *Granuliterebra* n. g. イボヒメトクサ属

Type species: *Terebra bathyrhaphe* Smith イボヒメトクサ

原殻は円錐形，ヒメトクサ属と同様，幼層では縦肋から始り，その肋の上下端が成長と共に顆粒を作り，顆粒が著明になって2列の疣の列が主な彫刻となる。

*G. bathyrhaphe* (Smith, 1875)

イボヒメトクサ  
OYAMA VENUS 1961 Vol. 21 p. 128

*Granuliterebra* Oyama, 1961, Venus 21 (2): 188. Type species, *Terebra bathyrhaphe* E. A. Smith, 1875, recent, Indo-West Pacific.

Isid. 1987

*Granuliterebra* Oyama, 1961 イボヒメトクサ属

本属の分布もヒメトクサ属と同様に分布し，各地に少ない。

*G. bathyrhaphe* (Smith, 1875) イボヒメトクサは男鹿半島の船越と茨城県那珂湊を北限として九州（宮崎県・天草等）まで分布し，瀬戸内海からも知られる他，台湾の安平の浚泥からも報告された。化石は千葉県太東町権木（完新統）・関東南部の更新統（成田層群・東京層等）・渥美半島（田原層）から報告された。

*G. tokunagai* (Yokoyama, 1920) トクナガイボヒメトクサは現生型が銚子附近で採集され，化石は長沼層（模式）から報告された。

*G. eoa* (Makiyama, 1927) チビヒメトクサ（新称）は掛川地方から知られたが，多古（成田層群）と中津（中津統）とからの報告もある。

OYAMA 1961 Venus 21 p. 125